



「best fight 力の限りを尽くせ」 体育祭を開催しました！

5月31日（金）、直前まで雨の不安もありましたが、当日は暑すぎることもなく絶好の体育祭日和となり、無事に体育祭を開催することができました。今年は能勢高校としては最後の体育祭となりました。

午前中は、入場行進、開会式に続いての80m走、棒引き、綱引き、学年対抗リレー。PTA 企画では、生徒や職員も参加してのフィットネスタイムを行いました。午後は学年を超えた一致団結を体現した応援合戦、騎馬戦。そして能勢小学校4年生と行ったしっぽとりでは、小学生チームの勝利となりました！生徒 vs 先生 vs PTA のリレーでは、PTA チームは予定にはなかった衣装をしておのレースとなり、魔女の宅急便、ジャック・スパロウ、バナナ、スーパーマリオなどのキャラクターが走り抜け、大盛り上がりでした。

保護者の方々をはじめ多くの来賓の方からの声援をうけ、生徒たちは多彩な種目を次々とこなし、みんなが団結しひと回り大きくなった体育祭となりました。



小学生が高校生と農業体験を行いました



6月4日（火）と6月11日（火）、能勢小学校3年生が、能勢高校の農場で食花交流系列の3年生と一緒に果樹の栽培管理を体験しました。説明を聞いた後、高校生の手を借りながらいねいにモモの果実に袋をかぶせていきました。高いところは踏み台を使いながらの作業となりましたが、早い子は短時間に10個近く袋をかぶせている子もいました。最後にみんなで挨拶をし、りっぱな実成長することを願いつつ作業を終えました。今から夏に行われる収穫が楽しみです。

能勢高卒業生が教育実習に来ました！

5月20日（月）～6月7日（金）まで、濱田理生さんが母校である能勢高校・能勢分校に、社会科の教育実習生として戻ってきました。濱田さんが生徒だった時を知っている先生方が温かく迎えてくれました。同じ学校で学んだ先輩が夢に向かっていきいきと活躍している姿は、在校生にとって大きな刺激となりました。濱田さんからみなさんにメッセージが届いています！



《自己紹介》

私は大阪の羽曳野市にある四天王寺大学4回生の濱田理生です。東郷小学校、東中学校、そして能勢高校の出身で、この度教員を目指す私は能勢高校で教員実習をさせていただきました。母校での実習は懐かしさだけでなく新鮮さや新しい発見、学びがたくさんあり大変有意義なものでした。

《後輩のみなさんへ》

私は、小中高を能勢で過ごし様々な経験をしました。特に、高校生の時に取り組んだユネスコの高校生世界フォーラムは私にとって大変貴重な体験であり、進路においても大変役立ちました。現在、能勢高校はSGHに登録され私が在学していた時よりもさらに様々な活動が盛んに行われています。能勢の学校に在学している皆さんも是非、このような能勢にしか無い特色や能勢でしか経験出来ない事を活かして将来に向けて頑張ってください！

『先輩は語る』

能勢高校生が能勢中学校で話しました

6月20日（木）、能勢中学校の3年生を前に、能勢高校生が『先輩は語る』と題してそれぞれの学びについて話をしました。探究系列と食農流通学習群と対人支援学習群を選択している2年生から2名ずつが、国際交流・地域交流からはタイ留学生オスカーさん、2年生と3年生からひとりずつ、また卒業生の齊藤依乃里さんが参加しました。

その後は保護者向けに進路説明会も開かれました。中学生にとっては来年の進路選択を前に先輩たちが高校で将来のためにどのような学習をし、地域の発展に貢献しているのかを知ることができた貴重な機会となりました。





平成 27 年度にはじまったスーパーグローバルハイスクール (SGH) は5年目の今年が最終年度となりました。本年度は課題研究として『マレーシア 経済発展と環境破壊』、1・2年生が受講するSGH後継事業であるグローバルスタディー (GS) では、『ドイツ シュタットベルケを能勢町に活かす』をテーマに、講師や先生方による講義や校外活動などを行い、研究を進めています。

マレーシアについては、8月4日(日)～9日(金)に生徒6名(2年生2名、3年生4名)がマレーシアのサバ州を訪れ、熱帯雨林やオイルパームプランテーションで実態調査を行い、プランテーションが経済や環境に与える影響などを学んでくる予定です。

また、ドイツについては9月2日(月)～7日(土)に生徒4名(2年生)がドイツのブリロン市を訪れ、シュタットベルケ(注)の視察や現地の高校と交流を行い、シュタットベルケを能勢町に実現できないかを考えます。このドイツの訪問は能勢町主催で、能勢町長と役場の方々に同行させていただきます。

(注)シュタットベルケ (STADT WERKE) とは…
ドイツにおいて、電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備・運営する自治体所有の公益企業(公社)。シュタットベルケはドイツ語で直訳すると“町の事業”を意味する言葉。いま、日本の多くの自治体でこのシュタットベルケをお手本としたエネルギー事業を糸口にし、地域の課題を解決し地域活性化につなげようという動きが広がりつつあります。

ドイツ視察に向けて 能勢町地域連携公開講座を行いました

9月に行うドイツでの実態調査に向け、能勢町と能勢高校・豊中高校能勢分校が合同で連携公開講座を4回シリーズで行いました。この講座では多彩な講師の方々をお迎えし、町民と高校生の垣根を越えて、能勢町の持続可能なまちづくりとは…について考えました。

①5月22日(水) テーマ: パリスタから見た ドイツ人の環境問題への取り組み 講師: 中村 靖彦氏 (ドイツ在住パリスタ、DJ)

ドイツでは環境問題への意識が日本に比べ高く、また自分の住んでいる町への思い入れが強いので、多少電気代が高くなっても地元へ貢献できるシュタットベルケがドイツ国内にこれだけ広まった理由を話されました。



②6月5日(水) テーマ: 掛川市における日本版シュタットベルケの取り組み 講師: 久保田 崇氏 (静岡県掛川市副市長)

震災後に陸前高田副市長を務め、福島原発事故の経験から自治体運営の電力会社設立に向け、現在は掛川市副市長として活躍しておられます。掛川市版シュタットベルケでは、電力で得た収益を市民へのサービスに還元し、『教育文化、健康・子育て、環境』において日本一をめざしています。



③6月11日(火) テーマ: 能勢町にとってのSDGsとは 講師: 榎原 友樹氏 ((株)イー・コンサル代表取締役)

SDGs(持続可能な17の開発目標)を能勢町に活かすにはどうしたらよいかを、ワークショップ形式で高校生と一般の参加者が話し合いました。高校生だから何もできないのではなく、高校生だからこそできることは沢山あることに気づかされました。

④7月2日(火) テーマ: ドイツ視察に向けて シュタットベルケの取り組み 講師: 川又 孝太郎氏 (環境省大臣官房環境計画課長)

ドイツのシュタットベルケ視察や能勢での再生可能エネルギー利用への取り組みは、在ドイツ日本国大使館参事官だった川又さんに、能勢高校でエネルギーについての講演をしていただいたのがはじまりでした。今回はドイツ視察直前の事前学習として、改めてシュタットベルケやドイツの今についてお話いただきました。ワークショップの時間ではグループに分かれて話し合い、ドイツの視察に望むことを発表し、「現地でしか知ることができないことを見聞きしてきてほしい」と期待の声が上がりました。



ドイツおよびマレーシアでの滞在中は随時ホームページにて活動報告を掲載しますので、ぜひご覧ください。また、11月に中間発表会を、2月に浄るりシアターにて研究発表会を行い、そこで成果発表を行います。また、シュタットベルケを能勢町で実現させる取り組みは、能勢町と高校生がタッグを組んでこれからも続いていきます。今後の活動にもご注目ください!!

ピースマーケット能勢2019に参加しました

5月26日(日)、浄るりシアターで開催された「ピースマーケット能勢2019」に3年SG重点分野講座受講生徒と2年GS重点講座生徒が参加しました。3年生は昨年行ったモンゴルでの実態調査について、2年生はドイツのシュタットベルケについての研究報告をロビーで発表しました。また、再生可能エネルギーを進める近隣市町村の市民団体の方々と交流し、昼食を取りながら意見交換会を行い、自分たちの考えを伝えました。

多くの来場者に能勢高校・能勢分校の活動を知ってもらうことができた有意義な一日となりました。

